

# 平成21年度病害虫発生予察注意報第5号

平成21年12月8日

愛 知 県

作物名：ナス（施設）・キュウリ（施設）

病害虫名：ミナミキイロアザミウマ

1 発生地域 県内全域

2 発生程度 多い

3 注意報発令の根拠

(1) 11月下旬の巡回調査の結果、ナスのミナミキイロアザミウマの寄生葉率は5.9%（平成20年:2.6%、昨年3.2%）、キュウリにおいても寄生葉率は1.0%（平成20年:0.2%、昨年0.0%）で、いずれも過去10年のデータと比較して最も高かった。

(2) 平成21年12月4日発表の名古屋地方気象台1か月予報では、向こう1か月の気温が高い確率が60%と予想されており、今後ミナミキイロアザミウマの発生増加に好適な条件が続くと思われる。

4 防除上注意すべき事項

(1) ミナミキイロアザミウマは、青色に誘引されるので、青色の粘着板を利用するなどして、発生状況をよく観察し早期発見に努める。

(2) 本種が媒介するキュウリ黄化えそウイルス（MYSV）による黄化えそ病の被害が懸念される。そのため、キュウリでは本種の侵入防止と密度低下を徹底するとともに、発病株は伝染源となるので、見つけ次第除去する。

(3) 本種は、各種農薬に対する感受性が低くなっている場合があるため、天敵や微生物農薬による生物的防除を積極的に組み入れるなど総合的な対策を行う。なお、農薬の選定にあたっては表1、2を参考にし、農薬散布を行う。

(4) 農薬の散布に当たっては、他の作物への飛散防止に努める。

(5) 農薬はラベルの表示事項を守り使用する。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除グループ

電話：0561-62-0085（内線471）

表1 ナスにおけるミナミキイロアザミウマに対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	希釈倍数または使用量	使用回数
プレオフロアブル	収穫前日まで	1000倍	4回以内
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内
アフーム乳剤	収穫前日まで	2000倍	2回以内
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	2回以内
ハチハチ乳剤	収穫前日まで	1000～2000倍	2回以内
スワルスキーカブリダニ剤 (天敵)	発生初期	約25000～50000頭/10a	-
タイリクヒメハナカメムシ剤 (天敵)	発生初期	約500～2000頭/10a	-
ボタニガードES (微生物農薬)	発生初期	500～1000倍	-

\*訪花昆虫を使用している施設については、影響の少ない薬剤を選択して使用する。

表2 キュウリにおけるミナミキイロアザミウマに対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	希釈倍数または使用量	使用回数
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000～4000倍	3回以内
アフーム乳剤	収穫前日まで	2000倍	2回以内
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	2回以内
ハチハチ乳剤	収穫前日まで	1000～2000倍	2回以内
スワルスキーカブリダニ剤 (天敵)	発生初期	約25000～50000頭/10a	-
タイリクヒメハナカメムシ剤 (天敵)	発生初期	約500～2000頭/10a	-
ボタニガードES (微生物農薬)	発生初期	500～1000倍	-



図1 ミナミキイロアザミウマ雌成虫



図2 キュウリ黄化えそ病発病葉